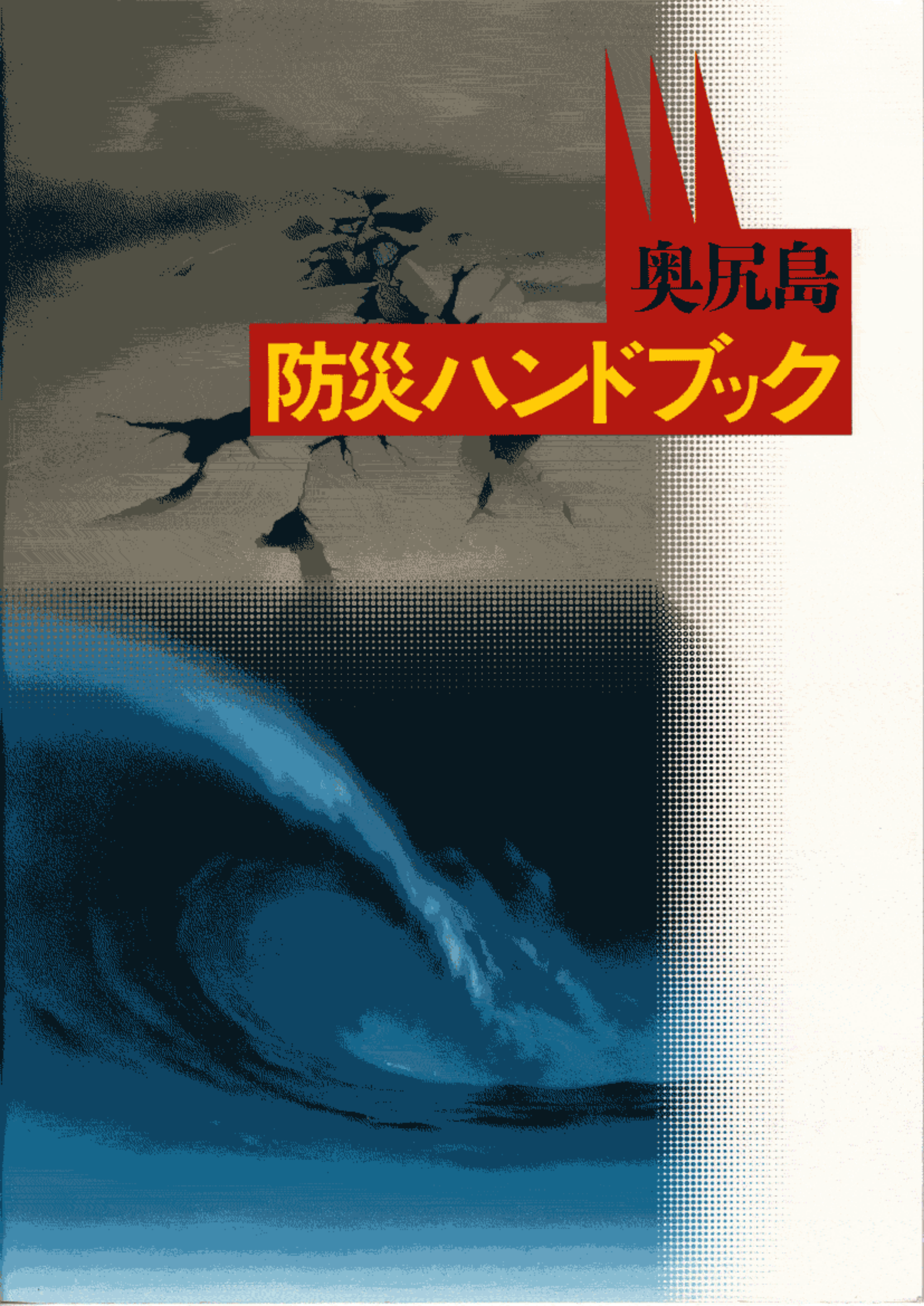
奥尻島
防災ハンドブック



《はじめに》

夢の島復興をめざして、災害に強いまちづくりを

平成5年7月12日、わが奥尻町は、北海道南西沖深さ34kmを震源とする大地震によって、甚大かつ悲惨な被害を受けました。地震直後に予想外の早さと高さで襲来した大津波は、避難しにくい夜間だったこともあって、青苗地区を中心に、島内各地に大きな被害をもたらしました。また、土砂崩れが各処で発生し、建物倒壊による生き埋め等によっても多くの犠牲者が出、道路や水道、電気等のライフラインも寸断されました。さらに、青苗地区では、大規模な火災が発生し、木造建物の密集した海岸の市街地は、折りからの強風と道路寸断による消火活動障害もあって翌日まで燃え続け、同地区は高台部分を除いて、この火災と津波によって、壊滅的な打撃を受け、廃墟と化しました。

しかし、この悲しむべき大災害の後に、全国から寄せられた両面に渡る力強く、暖かい御支援は、私達奥尻町民に、復興へ向けての大きな希望を与えてくれました。私達は、今回の悲惨な体験を通して得られた貴重な教訓を生かして、災害復興に不可欠な三つのこと—家族や親類みんなで力を合わせる「自助」、地域の力を借りて頑張る「共助」、そして行政の支援による「公助」—を大切にしながら、復興のための新たなまちづくりへ向けて、確実な歩みを続けております。

また、本年1月17日未明の大地震で、私達と同様の、いや私達以上の大きな不幸を経験された、阪神、淡路地方の皆様に対して、心からの御見舞を申し上げるとともに、私達が出来る範囲での支援を続けながら、皆様が一日も早く、安らぎの生活を取り戻されますよう、強く願っております。

今後、こうした不幸を繰り返さないために、種々の防

災対策が講じられていますが、「防災への備え」は、災害に強いまちづくりにより施設面からの対策だけでは不充分です。「自らの命と財産は、自らで守る」という防災の原点に立った町民ひとりひとりの明確な防災意識を醸成することが大切です。

そのような観点から、地震・津波だけでなく全ての災害に対して、「日頃からの備えはどうするか」、「いざという時にどうするか」について、具体的にわかり易くとりまとめ、この防災ハンドブックを作りました。このハンドブックをもとに、町民の皆様が、防災について、家庭や学校、企業、自治町内会などで、話し合ったり、防災講習や訓練活動を行なうなど、積極的に活用されることを望みます。町としても、災害に強いまちづくりを目ざして、公共施設の整備充実をはかるとともに、さまざまな防火対策を積極的に推進し、安心して住める夢の島〝おくしり〟を、町民のみなさまとともに築きたいと思います。

平成7年3月

［奥尻町長］……**越森幸夫**

天災は覚えていてもやってくる

けれども記憶し、教訓生かせば、被害は最小限にできる

1993年7月12日午後10時17分。奥尻の北北西67km、深度34km付近を震源とする北海道南西沖地震は奥尻町で、死者・不明者198人、建物全壊454棟の大災害をもたらしました。

この大災害がわたしたちに残した反省・教訓はたくさんありますが、最大の反省は、「日頃の備えをいざというときにあまり機能させられなかったこと」だったのではないでしょうか。地震対策は職場や学校での定期的な避難訓練をはじめ、確かに行われてきました。

しかし、天災は忘れたころにやってくる——というあの先人の知恵を、わたしたちはつい自分のこととして考える切実な危機感に欠けていたと思うのです。津波が時速600kmというジェット機なみの速さで押し寄せることすら、現実に目の当たりにするまではそれが「どれほど凄いものなのか」見当もつきませんでした。周囲を海に囲まれて暮らすわたしたちにとり、これは言葉には表せない大きなショックでした。

ともあれわたしたちは、痛ましい犠牲と引き換えに、自然災害の怖さを身にしみて経験しました。これを貴重な教訓として記憶し、地震に限らず、すべての災害に対応できるだけの防災感覚を磨くことが、奥尻復興をになうわたしたちすべてに課せられた義務だといえるでしょう。

【目次】

はじめに——[奥尻町長]越森幸夫……2

天災は覚えていてもやってくる……4

【地震】

地震の被害は常に予測を上回る……6

慌てず騒がず
秩序ある行動があなたを救う……8

【津波】

津波は容赦なく
すべてを飲みこむ……10

奥尻周辺は典型的な
地震→津波の危険地帯……12

【火災】

地震国日本。
家屋の多くは紙と木でできている……14

火災の原因のほとんどが
人災である……16

【風水害】

日本列島は台風の
メインストリート……18

わが家の
風水害対策は万全か……20

全町の地区別避難所……22

全町の地区別避難所位置図……24

[防災メモ]—避難行動の備え
シミュレーションは
しすぎるということがない……26

[防災メモ]—日常の備え
非常用持出品は
厳選、軽量、コンパクトに……27

わが家の防災ノート……裏表紙

【地震】

地震の被害は常に予測を上回る

地震は人間の油断を突いてやってくる

秩序を忘れた避難が被害を拡大する

生への執着を第一に、荷物は最小限に

地震はいつ起きても不思議ではない

地震・津波・火災は3点セットと心得よう

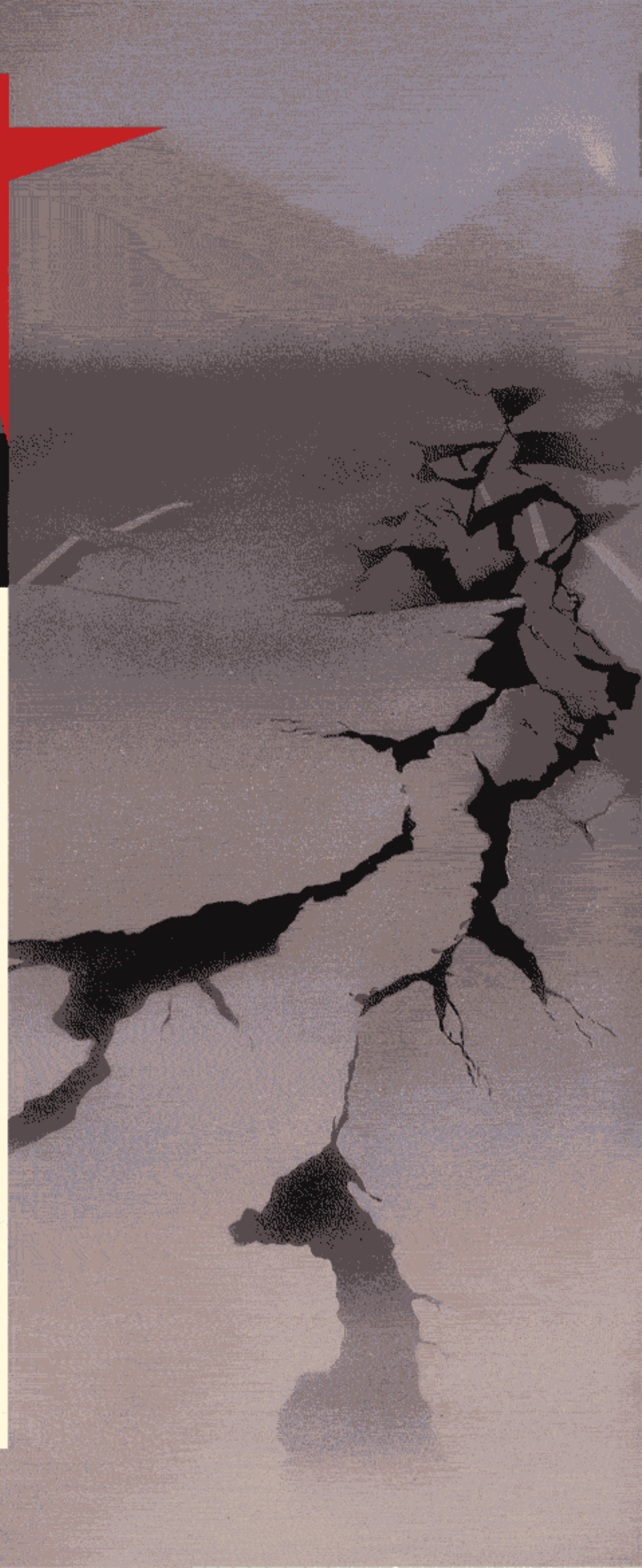
車で逃げると避難路が限定されてしまう

情報を確かめ、流言にはまどわされない

避難路の確認を常に家族の合言葉にしよう

日常の備えがあなたを守る

「グラッときたら火の始末」を徹底しよう



【地震】

慌てず騒がず 秩序ある行動があなたを救う

【地震に予知は不可能】

地震予知は実はまだ精度が確立していません。だからこそ予知に頼るのでなく、日常の備えが大切なのです。

【日本列島の地下は まさに"地震銀座"】

日本列島の地下は北米プレート、ユーラシアプレート、太平洋プレート、フィリピン海プレートが交差する地震銀座。いつどこで地震が起きても不思議はありません。

【震度と被害想定】

気象庁は震度4を家屋が激しく揺れる中震、5を家具類が倒れる強震、6をガケ崩れや家屋倒壊の発生する烈震、7を断層や家屋倒壊多発の起こる激震と規定。ただし津波は震度3(軽度)以下でも発生するので要注意です。

【家具は固定、安全な配置を】

倒れやすいものはきちんと固定し、家具類の上に重たいものは置かないなど、日常から気をつけましょう。

【避難路の確認を 日常の合言葉に】

家族で災害時の避難路の確認、待ち合わせ場所の確認を常にしておきましょう。ご近所同士でいざというときの役割分担、連絡方法などを話し合っておくのも有効です。

【携帯ラジオは 永遠の必需品】

電池は年に一度は点検すること。予備の電池も常に新しいものを準備しておきましょう。

【移動電話がいざというときに役立つ】

阪神大震災でも電話線を必要としない移動電話は大活躍。新しい防災用品としての使い道は大きいといえます。〈将来〉

地震が起きたら

【自分の安全確保を第一に】

地震発生！　まず自分の安全を確保しましょう。各自がケガをしないことがスムーズな避難活動をもたらします。

【地震が発生したらすぐにドアを開こう】

玄関が唯一の逃げ道になりがちです。逃げ道の確保が生死を分けると心得ておきましょう。

【慌てずに、しかし、すみやかに外に出よう】

一般住宅の場合、家屋倒壊の心配がなさそうなら慌てて外に出ることはケガの危険性を考え、控えるべきです。しかし、津波の危険地区ではぐずぐずできません。警報がでなくても、すぐに高台に逃げてください。

【避難は徒歩がいちばん】

車が立ち往生すると避難活動のジャマになります。運動靴(冬期にはスベリ止めのついた防寒靴)などしっかりした足ごしらえで冷静に避難しましょう。

【避難時の手荷物は最小限に!】

荷物を取りに戻り、2次災害に巻き込まれる例が目立ちます。必要最小限のものを日常からまとめておき、まず家族や自分の身を安全に避難させることを最優先にすべきです。

【避難路はなるべく広い通りを】

倒壊しやすいブロック塀のそばは危険。急傾斜地の足元は崖崩れの危険性が高い。垂れ下がった電線に触れてはいけません。

【情報は自治体の正式広報にしぼろう】

災害時は情報の混乱が引き起こされがち。自治体情報(防災無線や広報車による連絡)やラジオニュースを信じ、流言にまどわされないように。

【津波情報は冷静に聞きわけよう】

たとえツナミチュウイの初期注意報でも油断は禁物。海にいる人はすみやかに陸上に上がるべきです(詳細は津波編参照)。

【火の始末はそれぞれの義務】

地震後の火災はみんなが火の始末を心がければそれだけで半減。グラッときたら火の始末、はあなたの義務です。

【津波】

津波は容赦なくすべてを飲みこむ

奥尻周囲の海底地形は
津波が発生しやすい

◎南西沖地震では発生後
5分で津波が押し寄せた

◎海岸線の自動車道路は
津波危険地帯

◎物を取りに帰るヒマはない

◎根拠のないデマが
被害を広げる

◎津波は繰り返しやってくると
心得よう

◎警報解除までは
津波の危険は去らない

◎津波を避けるコツはとにかく
高い場所への素早い避難

【津波】奥尻周辺は典型的な地震→津波の危検地帯

【津波は地震の規模に関係なく発生する】

津波は小さな震度でも起こります。とくに奥尻のような地域では、地震があればすぐ津波を連想するべきです。

【体感地震がなくても津波は起こる】

遠隔地に地震があった場合、揺れを体感しなくても津波が発生することは珍しくありません。油断は禁物です。

【津波は地震による海底の隆起・沈降作用で起こる】

津波は海底地震による、海底の急激な隆起・沈降作用で発生。とくに奥尻周辺の海底地形は危険要素がいっぱいなのだということを、日頃から認識しておきましょう。

【家族であらかじめ避難場所を決めておこう】

地震・津波発生時の避難場所は、家族全員で日常から確認しあいましょう。

【津波は繰り返しやってくる】

とくに2度目、3度目になるほど津波は高くなる傾向があります。最初の津波が収まったからといって安心はできません。警報解除が出るまで避難場所にいるべきです。

【警報以前に津波が発生することもある】

南西沖地震では震源が近かったこと、海底の地形の関係で地震発生後5分という類を見ない早さで津波が発生しました。揺れを感じたらすぐ津波への警戒が必要です。

津波が起きたら

【注意報(警報)が出たらすぐ海を離れよう】

津波予報は『ツナミチュウイ』が数十cmの高さ、『ツナミ』が約2m、『オオツナミ』が3m以上の津波発生の見込みをそれぞれ表します。いずれにせよ、注意報が出たらすぐに海を離れましょう。

【南西沖地震で津波は車ごとさらった!】

自動車道路は海岸沿いが多く、地震時に車で逃げることは自殺行為だと認識すべきです。また車による避難は道路をふさぎ、他の避難者のスムーズな行動を阻害します。

【海岸から離れ、とにかく高台へ】

地震が発生したら落ち着いて火の始末をすませ、とにかく高台へと逃げましょう。

【沿岸付近の船舶は沖合に逃げよう】

津波は陸地に近づくほど高さを増します。海上の船舶は地震が発生したらすみやかに沖合に逃げてください。

【何はなくとも身の安全】

荷物や親類の心配より、まず自分と家族の安全な避難を心がけてください。津波は思わぬ速さでやってきます。

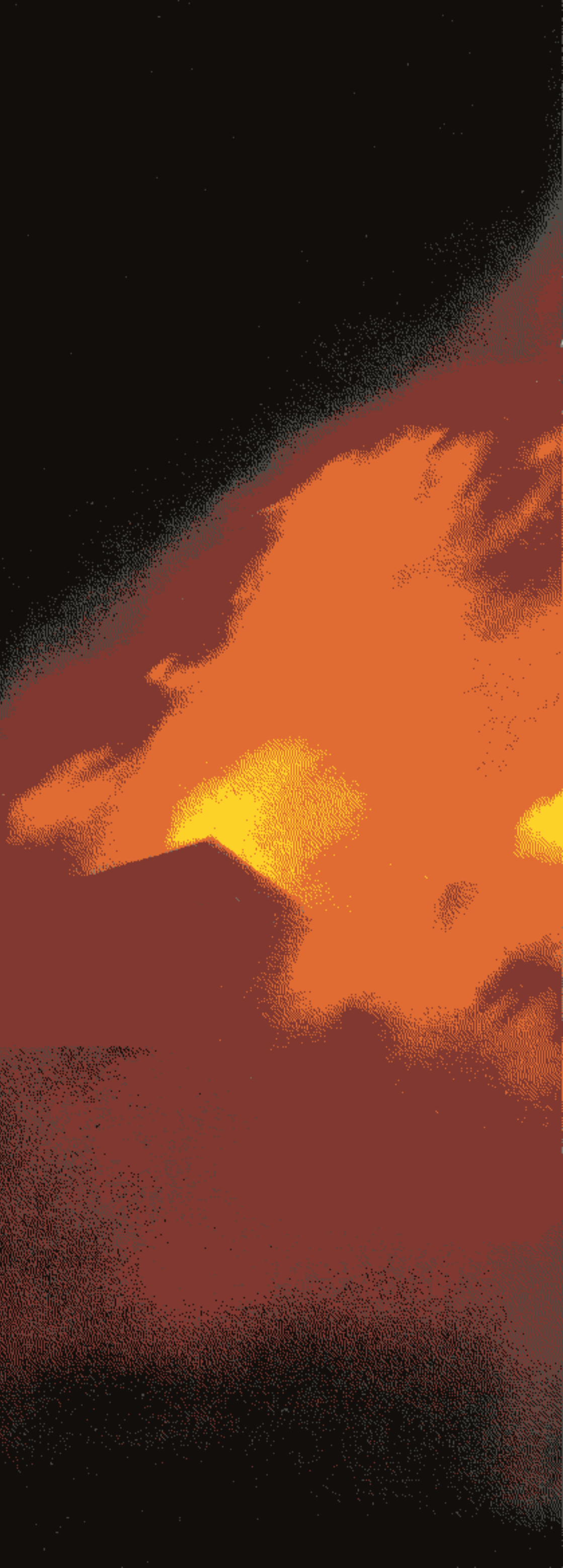
【警報が解除されるまでは自宅に帰らないで!】

警報解除までは津波の危険ゾーン。南西沖地震では貴重品を取りに戻ろうとして、被災した例もありました。

【火災】

地震国日本。家屋の多くは紙と木でできている

- 火災を防げば地震の2次災害は激減する
- グラッときたら「火を消せ!」と叫ぼう
- 避難の前にガスの元栓、灯油タンクのコックも確認
- 火災による死亡者の過半数は幼児とお年寄り
- 日常の火災予防が防災感覚を鍛える
- 類焼防止は初期消火の成否にかかっている
- 旅館・ホテルでは必ず非常口を確認しよう
- 喫煙者の過半数は畳やジュウタンをこがした経験を持つ
- 消火器は常に点検をしておこう
- 漏電検査は自分でもできる



【火災】 火災の原因のほとんどが人災である

【合言葉は地震がきたら火の始末!】

津波と同様に恐ろしい2次災害の代表が火災。津波はすべてを飲みこみ、火災はすべてを焼失させます。

【消火器類は日常の点検が大切】

使用期限は切れていないか。消防庁の基準に合った製品か。いざというときのために、定期的な点検が重要です。

【子供とお年寄りの部屋は1階に】

避難の遅れがちな幼児やお年寄りはなるべく1階で寝るように。火のまわる勢いは予想以上に早いものです。

【灯油タンクは倒れやすい】

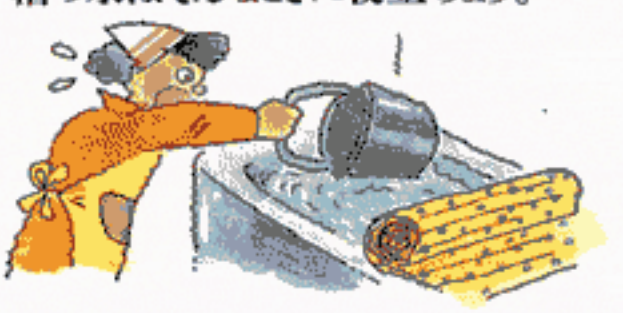
地震予防のために、灯油タンクは基礎をしっかり、プロパンボンベは鎖などで日頃から固定しておくと安全です。

【可燃性危険物の保存は厳重に】

シンナーやベンジンなどの可燃性危険物は高い所に置かず、ひとつの箱の中にまとめて保管しましょう。

【風呂には常に水をためておこう】

まず119番。さらに、ちょっとしたボヤなら冷静に水をかけると効果的。浴槽の水はそんなときに役立ちます。



【寝タバコはご法度!】

タバコを喫う人の過半数に畳、ジュータンや布団に焼けコゲを作った経験が。タバコは相変わらず出火原因のトップなのです。

火災が起きたら

【タバコの投げ捨てはクセになる】

タバコの投げ捨ては犯罪と心得るべきでしょう。タバコの火は600度〜700度。なかなか消えません。

【風呂の空焚きに注意】

水を入れ忘れかまどに火をつける空焚きは、火災発生の重大原因。必ず確認を。

【寝る前に必ず火の始末を習慣化】

この当たり前のことを守らない人がたくさんいます。慣れは怠惰に、怠惰はいつしか災害を呼び込みます。

【湯沸器・ストーブは常に点検を】

湯沸器やストーブはススがたまると不完全燃焼の危険が。暖房機は周囲に物を置かず、正しく使用しましょう。

【恐怖のガス漏れ事故!】

ガス漏れに気づいたら元栓をしめ、窓をあけましょう。大量に漏れたときはすぐガス会社に電話、ご近所にも注意をうながしましょう。

【漏電検査はこまめに実施】

電線の老朽化は火災の原因。電気の使用をすべて止め、それでも電気メーターが動いていたら漏電の証拠です。

【火災を拡大しないための備え】

カーテンを不燃繊維に替えたり、灯油や鍋の油が燃え上がったときの用意に砂を準備するなど、できる範囲内でこまめな対策を。

【火が出たらすみやかな初期消火を】

類焼を防ぐためにご近所と協力して素早い初期消火を。火勢の強いときは避難を第一に考えてください。

【煙は空気よりも軽い】

火災による死亡事故の多くは煙（有毒ガス）に巻かれて発生します。煙が充満する前に階下に避難しましょう。

【ホテルで火災にあったとき】

旅先で旅館やホテルに泊まるときは、着いたらまず非常口の場所・避難経路の確認を習慣化しましょう。

【荷物より生命】

自分の手に負えない火事だと判断したら、すぐに避難しましょう。荷物はまた揃えられますが、たったひとつの生命は取り返しがつかないのですから。

【風水害】

日本列島は台風のメインストリート

台風は年間平均28回発生し、3回上陸する

山と海の国ニッポンは全体が風水害の危険地帯

風速30mから家屋倒壊の危険がはじまる

降水量が1時間に20mmを超えると要注意

家屋の補強はドウ・イット・ユアセルフが基本

台風情報の最新版は刻々と変わる

保存食糧と電池がロウ城生活を支える

自宅周辺の地形的危険度を頭にいれておこう

津波が来なくても高潮が来る

土砂災害は想像以上に怖い!

【風水害】わが家の風水害対策は万全か

【台風は年間平均28回も発生する】

地震大国日本は同時に台風銀座。夏から秋にかけて発生する巨大な空気の渦巻き(熱帯低気圧)がその正体です。

【水害危険地域の地理的条件】

造成地、扇状地、山岳地帯は地盤が不安定。海岸付近の低地、河川流域には高潮・洪水の危険。自宅付近の地形を常に意識しておきましょう。

【日本は土砂災害の危険地域だらけ】

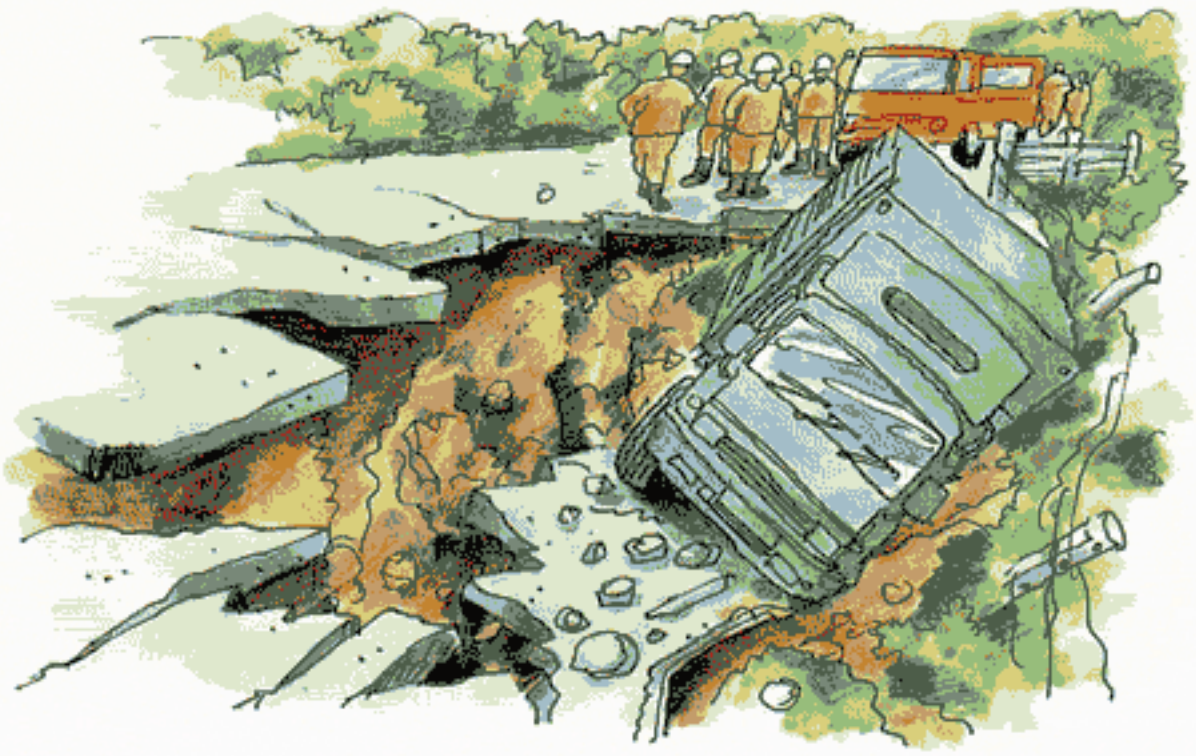
地滑り、斜面崩壊、土石流の危険地域が日本には約15万か所以上あります。山と海にはさまれた急傾斜地の多い奥尻も、そのほとんどが危険地域だと自覚しておきましょう。

【風速17m以上になると立派な台風】

風速15mを超えると傘がさせなくなり、20mを超えると小枝が折れ、25mを超えると屋根瓦が飛び、30mを超えれば家屋を倒壊させることすらあります。

【1時間に20mmを超える雨は要注意】

台風は豪雨をともなうのが通例。1982年に長崎を襲った集中豪雨は3時間になんと315mmを記録しました。



風水害が起きたら

【台風進路の右側地域は風がより強い】

台風の渦は左巻きなので風向の右側地域の危険がより強くなります。とくに航海中の船舶には必須の知識です。

【海岸地域は高潮にも警戒を】

津波のような速度はありませんが、台風は波を沿岸部に吹き寄せるので、しばしば高潮を引き起こします。

【予備の電池が明暗を分けることも】

台風情報の命綱は、停電でも作動する携帯ラジオ。電池の予備は常に備えておきたいものです。

【倒れやすい物は針金・ロープで補強】

台風の襲来が予測されるときは、アンテナ、エントツ、細木など、倒れやすいものへの補強をすみやかに。

【大工道具はなるべく本格的なものを】

家屋の補強や雨漏りの応急処置など、家庭には大工道具が必需品。なるべくしっかりしたものを選びましょう。

【板戸・屋根・ブロック塀・ベランダ】

窓ガラスを守る板戸、トタンのはがれやすい屋根、倒壊しやすいブロック塀、無防備なベランダ。台風シーズンの前には必ず点検を。

【台風情報はラジオ・テレビの最新版を基準に】

台風は発生時から綿密に観測され、常に最新情報が寄せられます。ラジオ・テレビの気象情報に注意しましょう。

【急傾斜地付近の住民はすみやかな対処を】

奥尻は風水害に弱い急傾斜地だらけ。ラジオ情報や町の広報には常に耳を傾け、適切な行動を心がけてください。

【全町の地区別避難所】

地区別避難所及び管理責任者、誘導責任者一覧表

地区名	世帯数(人)	人口(人)	避難所名・施設名(電話番号)	収容人員
稲穂 (野名前、稲穂、勘太浜)	69	196	❶稲穂自治振興会館(2-3186)	80
			❷稲穂小学校(2-2201)	300
			❸勘太浜自治振興会館(2-2959)	80
宮津 (宮津、東風泊)	125	378	❹宮津生活館(2-2179)	80
			❺宮津小学校(2-2424)	300
			❻東風泊自治振興会館(2-3197)	100
球浦	52	165	❼球浦自治振興会館(2-2749)	100
奥尻 (仏沢、奥尻、谷地、武士川)	618	1,587	❽奥尻小学校(2-2026)	2,000
			❾奥尻中学校(2-2037)	1,500
			❿谷地生活館(2-2963)	70
赤石 (赤石、恩顧浜)	93	263	⓫町民センター(2-3150)	1,000
			⓬赤石自治振興会館(2-3049)	80
松江 (松江、初松前)	76	168	⓭松江老人憩いの家(3-2274)	70
			⓮松江児童館(3-2916)	70
富里 青苗	515	1,384	⓯富里へき地生活福祉館(3-2046)	70
			⓰青苗小学校(3-2352)	1,500
			⓱青苗中学校(3-2024)	1,500
			⓲新生青苗ホール(3-1367)	500
米岡 (米岡、藻内)	35	94	⓳米岡自治振興会館(3-2558)	100
湯の浜 (神居脇、幌内)	23	61	⓴ホテル緑館(3-2811)	250

赤色については、大規模特殊災害時

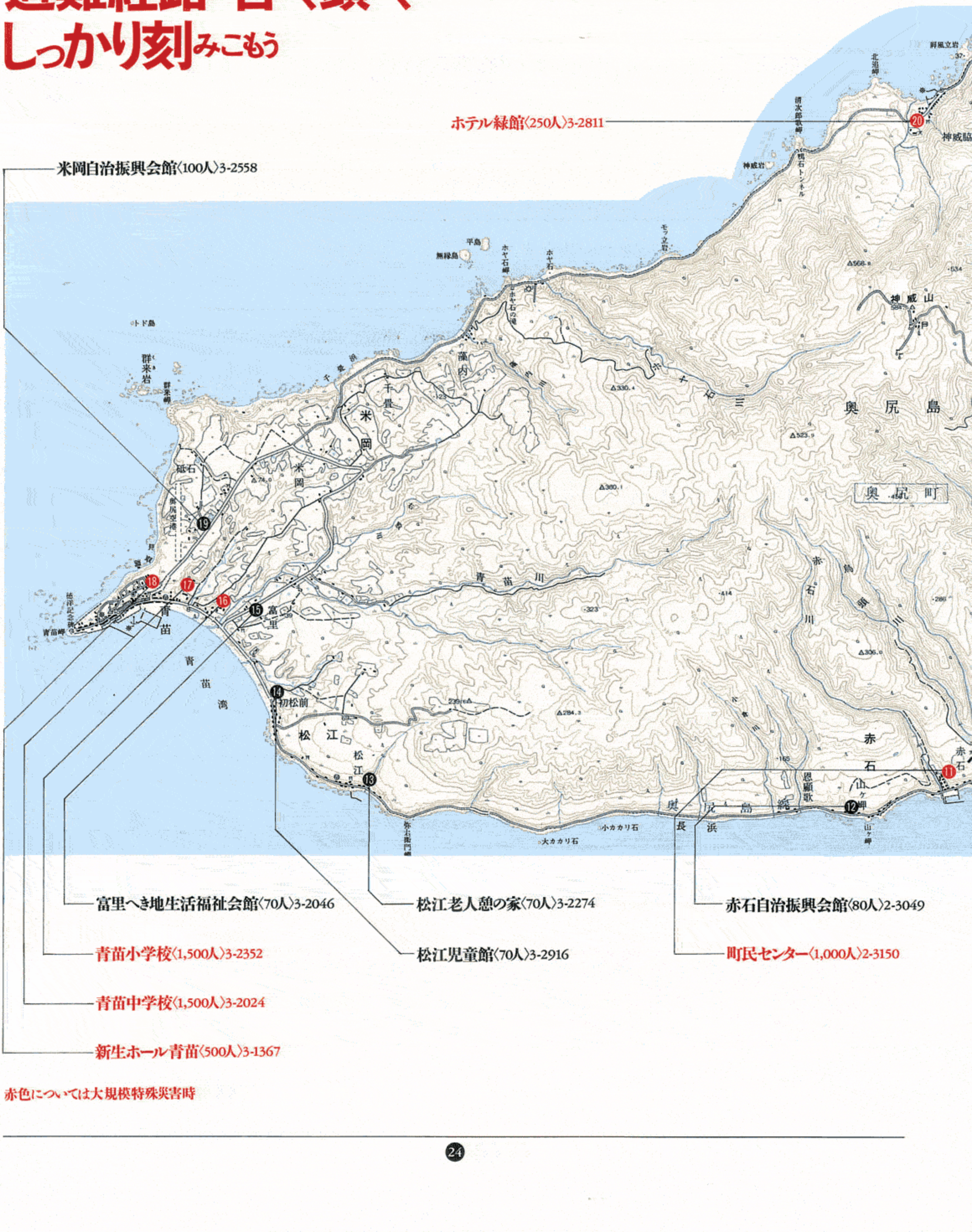
[redacted]

平成7年2月1日現在

	施設の状況	管理責任者	誘導員措置者		備考
			責任者	誘導員	
	コンクリートブロック平屋建 炊事施設、防災無線戸別受信機、孤立防止無線機、停電時用発電機	野名前区長	消防第5分団長 消防第5班長	消防第5団員	
	木造平屋建 炊事施設、防災無線戸別受信機、孤立防止無線機、停電時用発電機	学校長	消防第5分団長 消防第5副分団長	消防第5団員	
	木造平屋建 炊事施設、防災無線戸別受信機、孤立防止無線機、停電時用発電機	勘太浜区長	消防第5分団長 消防第5部長	消防第5団員	
	木造平屋建 炊事施設、防災無線戸別受信機、孤立防止無線機、停電時用発電機	宮津区長	消防第5分団長 消防第5部長	消防第5団員	
	木造平屋建 炊事施設、防災無線戸別受信機、孤立防止無線機、停電時用発電機	学校長	消防第5分団長 消防第5部長	消防第5団員	グラウンド： 大規模特殊災害時消防 ヘリコプター指定離発着場
	木造平屋建 炊事施設、防災無線戸別受信機、孤立防止無線機、停電時用発電機	東風泊区長	消防第5分団長 消防第5部長	消防第5団員	
	木造平屋建 炊事施設、防災無線戸別受信機、孤立防止無線機、停電時用発電機	球浦区長	消防第4分団長 消防第4班長	消防第4団員	
	鉄筋コンクリート3階建 炊事施設、防災無線戸別受信機、孤立防止無線機、停電時用発電機	学校長	消防第4分団長 消防第4副分団長	消防第4団員	
	鉄筋コンクリート2階建 炊事施設、防災無線戸別受信機、孤立防止無線機、停電時用発電機	学校長	消防第4分団長 消防第4部長	消防第4団員	グラウンド： 大規模特殊災害時消防 ヘリコプター指定離発着場
	木造モルタル2階建 炊事施設、防災無線戸別受信機、停電時用発電機	谷地区長	消防第4副分団長 消防第4部長	消防第4団員	
	鉄筋コンクリート2階建 炊事施設、防災無線戸別受信機、孤立防止無線機、停電時用発電機	教育長	消防第3分団長 消防第3副分団長	消防第3団員	
	木造モルタル平屋建 炊事施設、防災無線戸別受信機、孤立防止無線機、停電時用発電機	恩顧浜区長	消防第3分団長 消防第3副分団長	消防第3団員	
	木造モルタル平屋建 炊事施設、防災無線戸別受信機、孤立防止無線機、停電時用発電機	松江区長	消防第2分団長 消防第2副分団長	消防第2団員	
	木造モルタル平屋建 炊事施設、防災無線戸別受信機、孤立防止無線機、停電時用発電機	恩顧浜区長	消防第2分団長 消防第2副分団長	消防第2団員	
	木造モルタル平屋建 炊事施設、防災無線戸別受信機、孤立防止無線機、停電時用発電機	富里区長	富里区長	町内会役員	
	鉄筋コンクリート3階建 炊事施設、防災無線戸別受信機、停電時用発電機	学校長	消防第1分団長 消防第1副分団長	消防第1団員	
	鉄筋コンクリート2階建 炊事施設、防災無線戸別受信機、孤立防止無線機、停電時用発電機	学校長	消防第1分団長 消防第1副分団長	消防第1団員	グラウンド： 大規模特殊災害時消防 ヘリコプター指定離発着場
	鉄筋コンクリート2階建 炊事施設、防災無線戸別受信機、停電時用発電機	青苗支所長	消防第1分団長 消防第1副分団長	消防第1団員	
	木造平屋建 炊事施設、防災無線戸別受信機、孤立防止無線機、停電時用発電機	米岡区長	米岡区長	町内会役員	
	鉄筋コンクリート4階建 炊事施設、防災無線戸別受信機、孤立防止無線機、停電時用発電機	支配人	消防第1副分団長	消防第1団員	

【全町の地区別避難所位置図】

避難経路は目に、頭に、しっかり刻みこもう



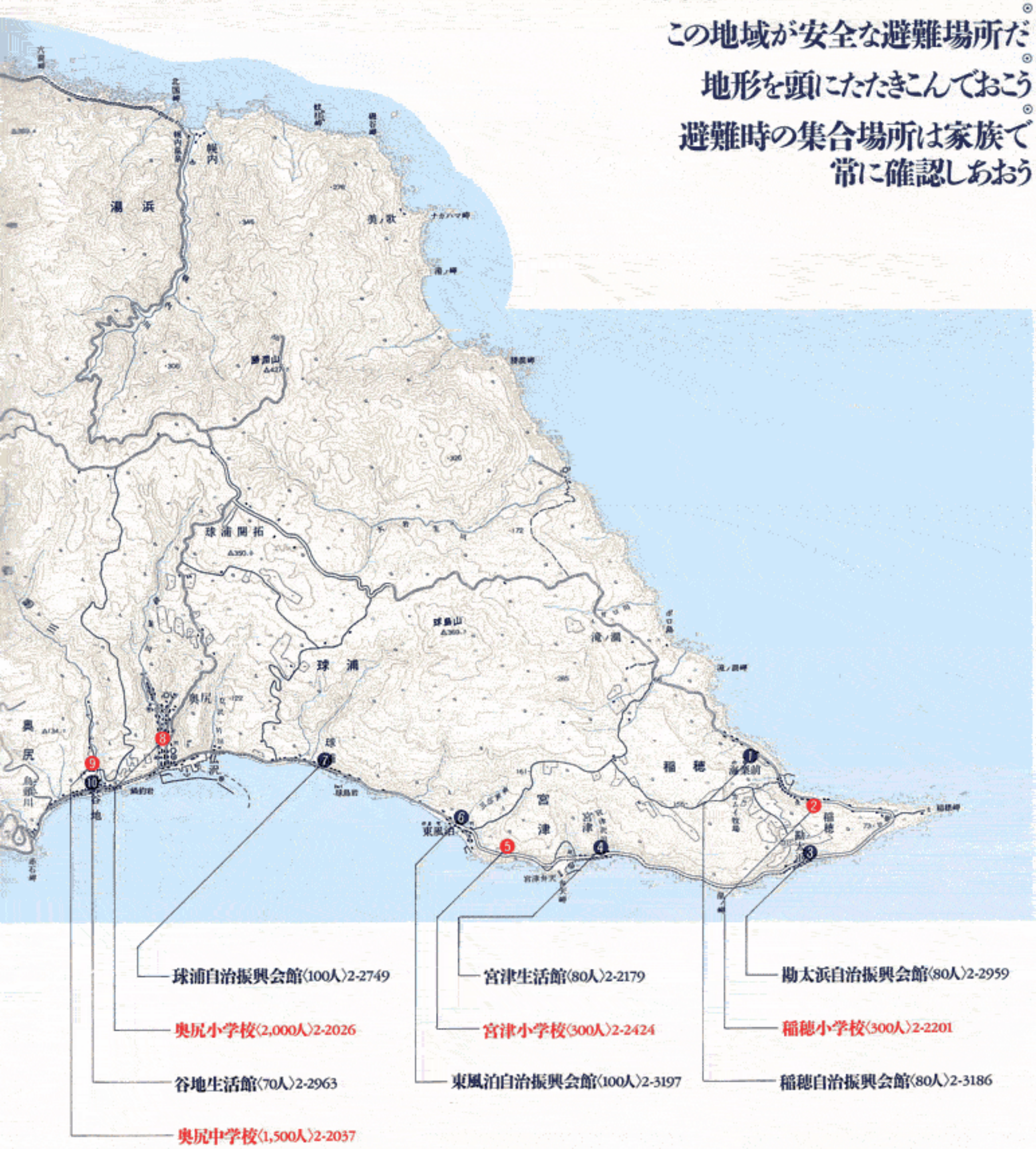
赤色については大規模特殊災害時

南西沖地震が証明した危険地帯

この地域が安全な避難場所だ

地形を頭にたたきこんでおこう

避難時の集合場所は家族で
常に確認しあおう



球浦自治振興会館〈100人〉2-2749

奥尻小学校〈2,000人〉2-2026

谷地生活館〈70人〉2-2963

奥尻中学校〈1,500人〉2-2037

宮津生活館〈80人〉2-2179

宮津小学校〈300人〉2-2424

東風泊自治振興会館〈100人〉2-3197

勘太浜自治振興会館〈80人〉2-2959

稲穂小学校〈300人〉2-2201

稲穂自治振興会館〈80人〉2-3186

防災メモ【避難行動の備え】

シミュレーションはしすぎるということがない

❶―月に1度は家族で防災会議

災害時の家族の避難経路、集合場所、連絡先、役割分担、基本的な心得など、家族全員で常に確認しあいましょう。

❷―遠くの親類よりご近所との連係

地域の防災訓練、町内会の役割分担など、いざというときの連係の訓練を通じて防災意識を高めましょう。

❸―聴覚障害者は携帯カードで準備万端

外出先で災害に見舞われたときの用意に、自分の連絡先や状況を知るための質問カードなどを作り、常に携帯することが大切です。その他、体に障害を持つ人は、いざというときの対処を常に病院と確認しあってください。

❹―深いガラス傷は要注意

ガラスが深く刺さって抜けないときは、無理に抜かず、固定したまますぐ病院へ行きましょう。

❺―すり傷、刺し傷

小さな傷の場合は傷口をすぐに洗い、消毒ガーゼをあてて包帯で巻く。大きな傷は即座に病院へ。

❻―一般的なやけどの応急処置は冷すに限る

衣類が付着している場合は患部をこすらないように、静かに水道水などで冷しましょう。

❼―骨折はとりあえず固定しよう

骨折の恐れのあるときは、患部に副木をして固定し、救援が来るまでなるべくその場で安静にしていましょう。そのまま避難しなければならない場合は、患部を動かさないように、静かに移動しましょう。

❽―避難したら事態が落ち着くまでは帰宅しない

災害状況がハッキリしないときに帰宅して、二次災害に巻き込まれる例は多いもの。町の許可が出るまでは避難場所で落ち着くことが肝心です。

❾―災害時の道路は緊急車両優先に

避難は車厳禁。必ず徒歩で！ 道路は緊急車両の活動用に開けておきましょう。

❿―車を運転中に避難する場合

危険地帯を脱したらすみやかに車道左側に寄せ、カーラジオで情報を収集。その場に乗り捨てるときにはキーを差し込んだままで、ドアロックもしないように。

防災メモ 【日常の備え】

非常用持出品は厳選、軽量、コンパクトに

❶—これが最低限の応急手当グッズだ

包帯・消毒ガーゼ・ばんそうこう・三角布・ハサミ・消毒石ケン・ナイフ・消毒薬・抗生物質の錠剤・体温計・ピンセット・安全ピン

❷—食料品は腐食しにくい保存食を

各種レトルト食品(副食)・各種レトルトご飯・缶詰・ビン詰のほか、赤ちゃんがいる場合には粉ミルク・ベビーフードなどは必需品です

❸—生き抜くのに必要な水は1人1日3リットル

飲料、煮たきに必要な水は1人1日3リットル。家族の人数に応じてポリタンクなどで常に用意し、ときおり入れ換えておきましょう。

❹—ラジオ・電池・懐中電灯は3種の神器

情報収集、夜間の行動に、ラジオ・懐中電灯・予備の電池は欠かすことのできない必需品です。電池は常に新しいものを用意しましょう。

❺—卓上カセットコンロとキャンプ用ストーブ

野外生活で便利なのがカセット燃料を使う卓上コンロと、キャンプ用の各種ストーブ(煮たき用)類です。

❻—非常用衣類は季節ごとに揃えたい

とくに奥尻の冬は厳しく、非常用衣類(手袋、帽子、毛布等)は必要最小限のものを、時に応じて万全に整えておきましょう。

❼—暖房器具はキャンプ用の携帯グッズが便利

釣りにキャンプに、さまざまな携帯暖房器具が発売されています。かさばらず長持ちするものを用意しましょう。

❽—貴重品はいつでも持ち出せるように

災害時は家に戻れない場合が多いもの。印鑑・現金・預金通帳・各種カード類など、いつでも持ち出せるように、ひとまとめにしておきましょう。

❾—いざというときのスグレモノ小道具

マッチ・ライター・ポリ袋・缶切り・携帯食器・ビニールシート・ロープ・笛・十徳ナイフ・予備のメガネ・メモとボールペンなども、ひとまとめに準備。

❿—非常用持出品は、男性で15kg、女性で10kgが限度

あれもこれもと欲張らず、貴重品・医薬品・食糧・衣類を中心に、総重量は、男性15kg、女性10kgが目安。ザックなど持ち運びやすいものに入れ、コンパクトにまとめておきましょう。

わが家の防災ノート

避難場所

［電話番号］

家族が離れればなれになった時の集合場所、連絡先

［電話番号］

家族の連絡先〈勤め先、学校など〉

［氏名］　［連絡先・住所］　［電話番号］

火事・救急車……119番
警察……110番
天気予報……117番

［消防］
奥尻消防署……2-2047
青苗分遣所……3-2351

［警察］
奥尻駐在所……2-2016
青苗駐在所……3-2350

［病院］
国民保険病院……2-3151
国民青苗診療所…3-2331

町役場……2-3111
青苗支所……3-2321
NTT……113番
北電奥尻営業所…2-2353

電話不通の場合各地区避難所設置の孤立防止無線機にて役場に連絡〈p22, 23, 24, 25参照〉

［発行日］…平成7年3月◎［発行］…北海道奥尻町 〒043-14 北海道奥尻郡奥尻町字奥尻806番地
TEL＝01397-2-3111◎FAX＝01397-2-3445
［企画］…奥尻町企画振興課◎［協力］…北海道警察函館方面本部警備課◎［製作］…津山スタディオ◎［監修］…濱田暁生
［編集］…EICネットワーク◎［デザイン］…谷村彰彦◎［イラスト］…山本匠＋木原四郎◎［制作］…津山正順◎［印刷］…日本写真印刷